

東京第四 機関誌



APRIL 9th 1977

やあ、皆さん、元気かい。
いよいよ四月だね。四月はいろいろなも
のが新しくなる月だ。四団もこの四月、新
しいスカウトをたくさん迎えたし、新しい
リーダーも加わった。そして今度はこの私
も新しく生まれ変わろうとしている。私こ
とミスター・スマイルは引退して、新しく
スカウト達にこのスマイルの編集委員にな
ってもらうことになった。私はこの通り文
才がないので、ベーデン・パウエルよう
な名文を君達への最後のメッセージとして
残すことはできない。ただ私が小さい時に
教会学校で聞いた話を、君達に贈りたいと
思う。昔、パレスチナという土地に二つの
湖があった。一つは大きくて一つは小さい
湖だ。二つとも周囲の山から多くの川が流
れ込んでいて、小さいほうの湖からは大き
な川が大きな湖のほうへと流れていた。け
れど大きな湖のほうから流れる川はなか
った。そのため大きな湖は水の流れがな

く、まわりの土地に多くの塩が含まれてい
たので水はとても塩からく、魚が一匹も住
めないで、"死海"と呼ばれていた。小さ
な湖のほうは流れ出る川があるので水が澄
み、たくさん魚が住んで周囲の村の人々
は、この湖の魚をとって生活することがで
きた。さあ、皆さん、この二つの湖のうち
どちらが豊かな湖だろうか。皆さんはもち
ろん、それは小さな湖だと答えるだろう。
私は、皆さんにほんとうの意味で豊かな人
生を歩んでほしいと願っている。けれど多
くの人々は"豊かさ"の意味をとりがちが
えている。真の豊かさとはこの小さな湖のよ
うに、小さくても得たものを他に分け与え
ることができるとはないだろうか。大
きな"死海"は多くの水を川から受けたの
に他へ分け与えなかったから、死んでしま
ったのだ。四団のスカウト諸君！この四団
を、いや君たちの人生そのものを、どうか
"死海"にさせないでほしいのだ。

「死海」にさせないでほしいのだ。

三十周年記念スカウト特集「スカウト運営委員になって思ったこと」

ブラウニー

森田雅子

ブラウニーは最後なので、何かやろうと運営委員になりました。ミーティングの時、みんな、おとなばかりなので私たち三人は心配になりました。でも、力を合わせてがんばってやってみたいと思います。

カブ

小坂秀一

ぼくは、タイムマシンがあればいいなあと思います。なぜかとゆうと三十才になった、四団の、昔の事を知りたいからです。でも、それは、むりなことなので、そのころの先輩に合える会のお手伝いを一生懸命やりたいと思います。

ジュニア

鈴木孝子

私は、運営委員になってよかったような気がします。三十周年記念の代表として一生懸命やりたいと思います。

ボーイ

鈴木健之

「B・S鈴木君!」と、三十周年運営委員

員の発表(えー、ぼくが、運営委員に?)

と、心の中で委員として、やっていけるかと不安になりました。けれども、その後、シニアや、レンジャーのスカウトのみんなが「ぼくたちが成功すれば、リーダーの立場がなくなつて。」と、聞いた時、「よし、やっていこう!」と、思いました。

シニア(ガール)

皆沢美幸

私は、初めて運営委員になったのですけれど、まず、はじめに感じたことは、学校の低学年から高校生までの人が集まっているのに、まとまっているとゆうことです。やはり、スカウトだなと思いました。それと、みんな三十周年記念を成功させようとする目的で進んでいるからだと思います。必ず、成功させたいと思います。

レンジャー

佐藤智子

私は、運営委員になってとても大変な仕事なんだと思いました。今まで、こんな大変な仕事を、リーダー達が、私達がやるま

でやっていて、スカウトはそれに従っていただけで積極的ではありませんでした。

しかし、今、私達がこの三十周年の運営委員で活躍しているとゆう事実は、今までになかったのではないかと思います。みんなの意見をまとめるとゆうのは、本当に大変な仕事です。でも、これにこりないで、これから先もこのように、スカウトの積極的な行動を生かしてもらいたいと思います。

シニア(ボーイ)

筒井一雅

ぼくは、スカウト運営委員会の代表的な立場として、大変な役についていると思っています。また、小さなスカウトから大きなスカウトまでの考え方の差を十分に理解した上で、みんなの意見を統一して行くことが、とても大変なことであることに気がつきました。しかし、この運営委員会を作ることによって、スカウトの連帯感と協調性が大切な要素となっていることを、スカウト自身に自覚させる意味でも良いことなのではないかと思っています。また、スカウトの

積極性もこの委員会に参加しているいなかかわらず、養うことができるのではないかと思っっています。そして、これがこの運営委員会を作った大きな目的でもあるのです。

今まで、リーダー達がやって下さっていた仕事を、スカウト達でもやっていこうという積極的な気持を持つことが、大切なことだと思ひ、このような仕事をやることによって、リーダー達のやって下さっていたことが、いかに大変なことであつたかが身にしみてスカウト自身にも、そしてほく自身にも良く分かりました。これから、三十周年の行事が終つても、スカウトとリーダーが相互に協力したり、スカウトの積極的な発言や行動がやれるような結果になつて欲しいと思っっています。しかし、注意として書きますが積極的な自分勝手なものは大変な違いであることをスカウトのみなさん、ほくを含めて十分に考へて欲しいことです。最後に、自分の感想を書くと、この運営委員になつたことが、これからリーダーになる為の一つの勉強となるとともに、これからのスカウト活動に生かしていきたいと思っっています。

以上で、スカウト各人の感想を終わります。

次に、運営委員になつたスカウトの氏名紹介をします。(スカウトは全員、三十周年のことに協力してくれましたが、ここでは選ばれたスカウトだけの氏名を載せます。)

ブラウニー・田中美帆・森田雅子
堀金絵津子
カブ
・小坂秀一・柏木昌夫

梶 正尚・山寺健基
大槻将嗣・佐藤明喜
脇村仁樹・葛西邦武
藤井 潤

ジュニア
・岡部加苗・今田文江
小久保尚子・鈴木孝子
桜井雅美

ボーイ
・小林雄平・小林元文
工藤聖紫・工藤紫麻
小林隆則・井原 操
大内理人・池沢英一
大島 啓・鈴木健之
小崎公平・服部 健

シニア(ガール)
・太田幸子・皆沢美幸
岩田佳津子・増田和子
杉本夏世
レンジャー・佐藤智子・鈴木慶子

秋元晴子・石川芳子

鈴木祥子・藤井由佳

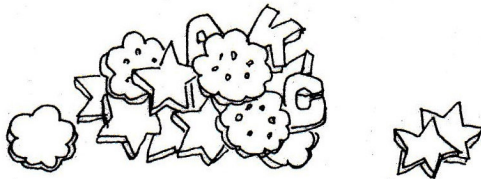
新井幸子

シニア(ボーイ)・筒井一雅・大内真人

金子和樹・永山茂樹

皆沢嘉幸・海老原伸一

以上が運営委員になつたスカウトの氏名ですが、ガールの方でシニアからレンジャーに上進するスカウト(氏名は分らない)も運営委員になる予定です。 以上



次に、係についての説明です。

。行事：これは、四月三十日のプログラムと会食について考える係。

。スマイル：この係は、三十周年が終つてからも続けて行けるように準備する係

。記念集：リーダーの作る記念誌と違った企画で作るガリ版刷りの記念誌を作る係

。ワッペン：記念品のワッペンをシニア(ボイ)とレンジャーとで作ったので、ワッペンの中にメッセージを入れる。それを作る係。

以上で係の説明を終わります。紙面が非常に少ないのでくわしいことは、はぶかせてもらいます。お許し下さい。あしからず。

お知らせ

ボーイスカウト東京第四団賛助会として今までお預りしておりました約二十五万円のお金は、三十周年を機会に団会計のほうへくり入れました。御協力を感謝いたします。(小松)

30周年あれと加

一 記念品ワッペン担当より

30周年の記念品となつては3つありましたが、そのほかワッペンは他の2つと違いスカウトの中で作ろうという意見が出。自分たちでデザインや色を考え、業者との色々な交渉の結果出来た訳です。(文責=大内真人)



30周年記念行事 一 記念式典

ごあんばい → 4月29日午後1時より
霊南谷教会礼拝堂

一 スカウト祝会

4月30日午後2時半より
晴天の時 → 霊南谷幼稚園の舎前庭
雨天の時 → 階下雑

一 記念礼拝

5月1日午前10時15分
霊南谷教会礼拝堂
*いすねも、OB、OGの方の御出席をお待ちします。

東京第四団機関誌スマイル
が10月号(発行所三号)
昭和52年4月9日発行
発行人 赤土スカウト東京支部
編集人 日下部 英一
(カマトリ 白石佳子)

スマイル伝言板
OBの方へ
・2/13 稚和園に2名OB会
は座況でした。
・2/18 稚和園-映画会
御協力ありがとうございました!
・3/24 コール大会は雨で
中止。残念でした。
(T)